総務文教委員会会議録

平成23年12月12日 10時00分 開会
12時10分 閉会

網走市議会

午前10時00分 開会

○小田部委員長

ただいまから、総務文教委員会を開会いたします。

本日の委員会であります。前回、すなわち5日の委員会から継続議件として皆さんと協議しております。網走市の学校給食について議題として質疑をいたしたい、このように思います。

委員長から申し上げます。

委員の皆様も御承知おきのことでありますけれども、今議会は、事前協議をしないと、こういうふうなことはもう確認済みでございます。議会において、常任委員会に閉会中の継続審査、このことを付託されておりますので、そのことをきちっと皆さん御承知おきのことと思っております。その上において、きょうの議件について皆さんと質疑を深めて主体的に資していただきたい、このように思いますので、ひとつよろしく願いをいたします。さようなことで、きょうは1件ですけれども、進めていってよろしいですね。

それでは、早速網走市の学校給食について、渡邊管理課長から。

教育長。

○木目澤教育長

その前に、私のほうから一言御発言をしたいと思っております。

この議件につきまして、対応が適切であったか否かということにつきまして、これまで配慮をすることによって、理解を得るために望ましかったのではないかということのみずから考えておりました。それが十分でなかったこと、まことに残念なことと考えております。そういったことを含めまして、この後担当の課長から説明をいたしますので、よろしく願いを申し上げます。

○小田部委員長

それでは、さっそく渡邊管理課長、説明をお願いします。

○渡邊管理課長

それでは、私から網走市の学校給食につきまして御説明をさせていただきます。

前回、12月5日に開催されました本委員会で、学校給食の親子方式を、新たに網走小学校と第一中学校、南小学校と第三中学校の2カ所において導入することとし、今回の12月議会で追加案件と

して、小学校2校の給食調理施設の増改築並びに5校の耐震化にかかわる実施設計費の補正予算を提出させていただき予定、そういうことを説明させていただきましたが、これが口頭説明だったということもございまして、本日は、お手元に配付のとおり、資料を提出させていただきました。

この資料につきましては、前回口頭でお話ししました内容を、簡単ではございますが記載させていただいたのと、国の3次補正の財源スキームを図式化して添付してございますが、多くの部分につきましては、前回の説明と重複いたしますので、そういった部分につきましては、簡単に御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、資料の1、これまでの経緯でございますが、初めに(1)ですが、第2次行政改革推進計画で、学校給食は民間に業務委託することを前提に検討する業務と位置づけられていたことから、平成21年8月から、教育委員会において、今後の学校給食のあるべき姿についての検討を始め、ここに記載のとおり、4回の教育委員会と2回の協議会で審議と協議を行い、その結果、既に4地区で実施している親子方式を、さらに2カ所で拡大し、これによって、安心して安全な学校給食の提供に資することが望ましいとの当面の方針を決定したところでございます。

次に、(2)につきましては、平成23年3月の第1回定例会代表質問における質問と答弁の概要を記載しております。

(3)につきましては、平成23年の6月ですが、市の内部調整ということで、ここに記載のとおり、市教委では、市長部局等との協議を重ね、市として親子化の意思決定を行い、そのことは(4)に記載のとおり、平成23年6月の総務文教委員会で説明をさせていただいたところであります。

次の(5)でございますが、平成23年6月の第2回定例会一般質問における質問と答弁の概要を記載しております。

次に、(6)でございますが、ことし8月になりまして、岩見沢市での食中毒や、東日本大震災の発生等を考慮し、学校給食施設の安全性と学校の校舎自体の安全性について、財政面を含めて改めて検討することとなり、その結果、耐震と調理場の増改築につきましては、一体的に進めていくということで、市の実施方針の見直しを行い、決

定をいたしたところでございます。

次に、裏面、(7)になりますが、平成23年9月の第3回定例会において、耐震二次診断にかかわる委託料の補正予算案を提出し、議決をいただいております。

次の(8)でございしますが、市教委では、9月から10月にかけて保護者等への説明会を開催しております。

また、(9)につきましても、その後に状況が大きく変わった部分となりますが、6月の総務文教委員会や、9月以降の保護者説明会等で説明した時点におきましては、耐震工事費も、給食施設の増改築工事費についても、平成24年度予算で提案することで考えておりました。そうした中、学校の耐震化を進めてほしいということで、10月12日ですが、文科省から耐震担当の企画官等が当市に来られましたが、その際、国の第3次補正の話があり、学校は災害時の避難所の機能も有していることから、当市から文科省担当者に、耐震と合わせて、給食施設の増改築についても対象となるよう提案し、その実現を要請したところでございます。

また、あわせて、文科省には何度も、ぜひ網走、給食施設も対象にしてほしいという意向を伝え、11月17日には、直接文科省に出向き、さらに要請をしてまいりましたが、こうした結果、12月1日付文科省通知により、3次補正の耐震事業と一体的に行われる給食施設整備事業についても、3次補正の対象事業として見込まれることとなりました。

今回の国の3次補正に乗るためには、耐震はもちろんのこと、給食施設の増改築についても詰めの検討を要することとなりましたので、耐震の二次診断の結果を急がせ、実施設計費を12月当初案件として提出できるよう、建築課とも協議を重ねてまいりましたが、間に合わなかったというのが実情でございます。

また、文科省への所定の事務手続、さらには23年度の3次補正ということで、本来、来年3月には工事費の予算措置を行って、翌年度に繰り越さなければならないという時間的制約がありますので、これから逆算しますと、この12月には何としても実施設計費の補正予算を御審議いただき、年内には実施設計の入札準備まで進めておかなければならないという、大変厳しい日程の中での対応

が迫られました。

このような経過がありまして、本来ですと12月議会の当初案件として実施設計費を要求させていただきかけたのですが、結果的には、追加案件として12月議会に提出せざるを得なかったという結果となってしまいました。

次に、2の第3次補正の財源スキームについてでございますが、ここで2枚目の別紙、平成23年度第3次補正予算に係る地方財源措置という資料をごらんいただきたいと思います。

この資料の上半分は、耐震化に係る財政措置の内容となりますが、当市では当初、平成27年度までとされている現行の交付金制度、これは一番上にあります国庫補助2分の1、補助残の75%が地方債の対象となり、その50%が交付税措置されるということで、実質市町村の負担が全体の31.25%という制度を活用しての事業実施を考えておりました。ですが、今回の3次補正では、国庫補助率は2分の1で変わりはございませんが、2段目にありますように、補助残につきましても、100%地方債の対象となり、しかもその80%は交付税で戻ってくるということから、市町村の持ち出しは、実質10%という大変有利な制度となっております。

次に、下段の表になりますが、こちらは給食関係となりますが、まず上の図が通常の給食施設の整備の補助となります。この給食の補助につきましては、従来から実際の工事費にかかわらず、国におきまして施設面積や建築単価を定め、その積算額によって補助基本額を決め、その基本額の2分の1が補助対象となるために、実際の工事費全体に占める補助金の割合は、大変低いものとなるのが実態となっております。

また、地方債の対象、元利償還金の交付税措置も、この図のとおりですので、市町村の実質持ち出しは、大変に大きいものとなります。

ところが、下段の今回の3次補正の対象になりますと、国庫補助基準額の考え方や補助率に変わりはありませんが、第3次補正の場合には、地方債が100%充当ということで、交付税の戻りが大きいことから、実質的な市の持ち出しは、この図のように大きく軽減され、上段の耐震についても、この給食につきましても、3次補正を活用することで、市町村にとっては、大変に有利に事業展開ができる魅力ある制度内容となっております。

す。

次に、前の3の今後のスケジュール案をごらんいただきたいと思いますが、まず先ほど御説明させていただきましたように、今回の大変有利な3次補正に乗るためには、(1)に記載のとおり、12月議会の追加案件となりますが、市内5校の耐震化と2カ所の給食調理施設の増改築工事にかかわる実施設計費の補正予算案を提出させていただき、これを議決いただきましたなら、(2)になりますが、今月下旬に実施設計を発注するための準備に入り、(3)のように、来年早々には入札を行って、(4)ですが、来年3月に3次補正の条件となります、工事費の補正予算案を提出させていただくのと、あわせて、その平成24年度への繰り越しのための処理をお願いしたいと考えております。

次に、これらの手続を経まして、(5)ですが、平成24年度に入って南小と網小の2カ所の増改築工事に着手し、これらの給食施設の供用開始時期につきましては、南小が平成25年1月下旬、網小が25年4月上旬となるよう計画しているものでございます。

簡単ですが、以上で資料の説明を終わらせていただきます。

○小田部委員長

ただいま課長から、文書によって説明をいただきましたが、これ及び学校給食全般に対して、委員の皆さんの質疑をお願いしたい、このように思います。

○飯田委員

今、渡邊課長から説明があったのですけれども、5日の総務文教委員会、口頭でありました。口頭であったほかに追加された資料ということで、私閉会中と言うか、5日の委員会というのは、委員長が開催したということなのです。ここに書いてあるとおり、これまでの経緯として、教育委員会が平成21年8月20日からずっと4回やって、協議会を2回やりました。その間、もう平成22年の10月28日は学校教育調理体制のあり方の方針について決定された。ところが、議会側からのみの問いかけで、この23年3月の代表質問なり出るようになった。要するに、ここで確認されているのは、検討を進めて方針を出す。

私どもの議員団も代表質問を行いました。この中では、自校方式を維持せよと。そのために、学

校給食の正職員をずっと減らしてきていると。不補充で来ると、この自校方式も大変でないかということで、その中での答弁で、新たな自校方式に準ずるのが親子方式なので、導入は不可欠で検討を進めているという答弁がありました。検討を進めて方針を出すというのは、あくまで方針だけであって、この議会に示されるというのは、議決事項を伴うものですから、私は全く、方針を出したから、それが親子給食として、あんた方判断をなささいよということではない。議会に初めて出されて、私は議決事項になる。だから二代表制、二代表制でも、さまざまな意見があります。首長も住民に責任負っているから、行政側として、そんなような方針を出すというようなやり方での論法もありますけれども、少なくとも議会は、チェック機能としての役割を果たすものですから、その辺が教育委員会からでなしに、議会側からの要請で、初めてこういうものがあるということが、一つの今までの、5日での経緯だった。

少なくとも、父母の説明だとか学校側への説明等については、5日でも議論になりました。

今回、もう一つ問題になった追加提案、教育長が冒頭、そんなような発言がありましたけれども、今回のやり方については、適切ではないというような意味のことだと思いますけれども、ありました。しかし、今回の今の渡邊課長の聞いてみると、方針の大転換なのです。22日追加提案されるのは、学校給食だけではないのです。学校の耐震化も含んでいます。耐震化も含むということは、9月議会で、要するに、3・11を受けまして、耐震化を急ぐということになったのですけれども、それは3年、4年かけてやるというように私は記憶している。それを今回一気にやってしまう中に、給食だけでなく、学校の耐震化のやつも補正予算に出すわけです。ただ学校給食だけで、仮にですよ、一般質問とかいろいろ終わって追加提案されたときに、1時間か2時間で、学校給食のほかに耐震化のほうだって質疑があるので。十分な質疑が必要なのです。それをどうして、間に合わなかったと言いますけれども、どうしてこの10月12日の時点で、議会にこういうような要請をしているということを諮って、なおかつ11月21日に、第3次補正が成立したときに、そんなようなスケジュールで示さないのか。

今回、私は学校給食だけでなく、恐らく16日

に委員会ありますけれども、22日に追加提案されたら、本当に時間はないのです。だからこそ、ここに副市長もいますけれども、議運で議論したのは、そのような時間が、会期延長するだけの心構えを持っているかということで、この間議会運営委員会で質問しました。そういうことから言うと、方針の大転換ということに対する認識、これを教育長と副市長に伺いたいと思います。どんなような認識。

○小田部委員長

ちょっとお待ちください。

まず、冒頭での飯田委員の発言に対して、委員長として御報告申し上げます。過般の5日の委員会につきましては、常任委員会委員長として、これまでの経過について事務局と総務文教委員会の対応について精査を委員長としていたしました。その結果、この議案については、その後、委員会として深く委員の皆さんと協議をしていないと、こういうふうな実態が見えたので、教育委員会に対して、この問題について、ぜひ委員会として熟議をしていきたいと、こういうふうに要請をされました。

時をたまたま同じにしたと思いますが、教育委員会のほうからも、その趣旨の意向が伝わりましたので、これは委員長から言うべきことでなく、教育委員会のほうからも、その辺を含めて、どういふふうな対応、意思であったか、今表向きには、委員会が求めて、5日の総務文教委員会と、こういうふうな趣旨の御発言でございましたので、そのことについて、含めて、今の飯田質問に対する説明をお願いをしたいと、このように思います。

○木目澤教育長

教育長という御指名でしたので、私からお答えさせていただきますが、今お話しがあったことにつきましては、経過説明は課長の説明に尽きるでありますけれども、親子給食の方式が大転換ということの御質問だというふうにとらえておりますが、前回も御説明させていただきましたように、市内では、他の小学校、中学校の中で、そういった形態を考えておまして、6月の議会、9月の議会の一般質問でもお答えをさせていただいたとおりであります。

飯田委員のほうから、大転換ということのとらえ方については、私どももそういったことより

は、これまで毎年保護者の意見を聞いたり、給食担当者との会合を持ってきておりますから、そういった中で検討を重ねてきたというのが事実でございます。

○小田部委員長

教育長、私一言だけ。5日の日の委員会を開催することについて、教育委員会に申し入れを委員長としてした段階に、教育委員会も、実はその機会に、今回の方針について、具体的にこの案件について説明したいと考えておりました。タイミングが一緒ですと。このことを先刻私は言わなかったのは、これは本来教育委員会の執行の意思としての発言があつてしかるべきと、こう思って飯田委員の質問に私は委員長の立場でのみ報告したのですが、それに間違いありませんか。

○木目澤教育長

ありません。

○小田部委員長

そういうことです。

○大澤副市長

耐震化の関係と、給食の関係が今議会の追加予定案件とせざるを得なくなったということについては、これまでの委員会でも再三にわたって御説明をさせていただいたということが、まず1点あります。

それから、今教育長並びに委員長のほうからお話ありました、方針の大転換でないのかと、そういうお話ですが、私どもの受け方としては、既に親子化については、数校において実施しているという状況の中で、今回についての親子化というのは、拡大だという私は認識をしております。

それから、耐震の関係につきましても、先ほど申し上げましたとおり、平成24年度以降、27年度までの交付金制度がある中で考えておりました。

それから、給食の関係につきましても、6月の委員会で説明しているときには、24年度以降に実施すべく考えていたものでございます。

これらが、すべて3次補正に前倒しの形でやるということからは、今回のこのような形でのお願いと言いましょか、予定になったということで、そのところは御理解いただきたいというふうに思います。

○飯田委員

5日も議論したのですけれども、財政的措置のあるうちか、学校給食がいかにあるべきかという

基本的視点、私は財政のほうは後だと。学校給食がいかにあるべきかという基本的視点を、私は後に、財政措置のほうが優先しているから、こういうような話になっているということは、5日にも言いました。まあこれはこういうようなペーパーが出てこない中での話ですし、予算措置も伴わない中での話です。だから学校における説明だとか地域住民、父母等への説明が、学校給食がいかにあるべきかという基本的視点を抜きにして、要するに自校方式のほうが財政的と言うか、効率化がいいということで話は進んでいる。

この間委員会のときだって、山田委員いますけれども、前回の自校方式には大きな議論をいたしました。親子は自校に準じないよというのは私たちも、私もちょうどその議論に加わった者として、決してそれが支障なく進んでいるというような認識ではありません。ましてや前回は中央小の新築、それから西が丘の新築とか、学校の新築計画に合わせての給食の自校のやったというのは、山田委員からもあります。

それから、今回のは財政、親子給食の方針出されたら当然議論します。方針もこちらに示されないうまま、財政優遇措置のあるというのが前面に立っているというのが、私どもの印象なのです。

学校なり、地域なり、父母なりの説明が、学校給食がいかにあるべきかという基本的視点に立てば、ここでは説明会の実施が行われていますが、参加人数が163名、教職員が108名、PTAと保護者55名となっていますけれども、実際この内訳、各学校での内訳数は、私は概数でしか聞いてませんけれども、本当の一けただとか、多く言っても、一つの学校で教育長が文書出してやった説明会では11名だとか、本当のわずかな数字です。そうであるならば、私も5日に言ったとおり、クラスごとの説明会なり、そういうことをしっかりとやるべきでないかと。そういう中で幅広い意見を拾い上げる。これが今回の学校給食の仕組みを変えるものですから、教育委員会はずっと10年前に親子方式をとったときには、自校方式に準ずると。だけれども、準ずるのでないよと。ましてや、平成17年には、食育の推進計画も網走市で出されて、そこにも学校給食の自校方式への思いがしっかりと書かれているということ。こういうことを踏まえて、やはり説明会に臨む姿勢というのが当然あるべきだと思います。

きょうの、これは経過だけなのです。ましてや学校の説明会におけるさまざまな事項なんて、ここに出てこないの、仮にですよ、学校に説明した、例えば本当に自校方式と変わらないような効果が期待できるかという実態というのは、全然書かれていないです。ましてや、網小から一中に運ぶ時間だとか、南小から三中に運ぶ時間が、果たしてどのような根拠をもとにして出されたかということも一切ない。だから時間が物すごく必要なのですけれども、議会側から要請しないと、こういうようなことが出ないということ自体が私は、言葉で言えば、議会軽視でないかということを含めて、本当にこの議会にもっともっと資料が、私は持っていると思うのですけれども、ましてや今予算が追加しかないという、本当にいずい状態なので、ましてやきょう説明のあった別紙のこの財源スキームに係る問題だって、一切議論がなかなかできないのです。

こういうものは、本来8月の教育委員会の方針が決まった時点で議会にも諮るべき、特に予算のことに関しては、諮るべきだと思うのですけれども、初めのスキームでやると。それでやって、次に第3次補正に乗ってきたということで、またやるというようなことは可能だと思うのですけれども、教育部長、この辺どうですか。

○小田島学校教育部長

まず、最初の部分の私どもの認識の中で、今お話しがいろいろされましたけれども、まず今回の親子化を教育委員さんの中で話をさせていただいた分の中の、その中心となった部分の中では、子供たちの今後将来に向けた給食は、まずどういう形であればいいのか。当然その中に、食育とか含めた中のお話しも出てきているのですけれども、財政の部分が前面で、その辺のところは後だという議論は、全く私どもは考えておりません。どういう形で、子供たちの食事の安全な部分を含めた中で進めて行くかということが、議論の中心というふうに考えていたということも御承知おきをいただきたいと思います。

それから、耐震の関係も含めて、給食調理場の改修についても、基本的には古い状況で、施設をどういう形で今後改修をしていくのかということは、私どもが将来に向かって子供たちの提供者として、安全な施設というのもやっぱり重要な形で

ある。そのためには、今回考えている4校の部分の中の施設老朽化が進んでいるのを、いずれにしても改善その他指導を受けていますので、それを早くいい方向に持っていく手法として、網走市の財政いろいろ考えた部分が後だということにはなりませんので、どうすればきちんとした整備ができるのかという手法の中で、親子化という話が一応出たということになります。

それから、耐震の部分についても、今回急にというお話もありましたけれども、二次診断の結果を見た中で、できる順番づけもし、早急に耐震改修を行っていくということで、9月の答弁もさせていただいたというふうに思います。9月には、その改修、診断費について補正をさせていただきまして、そういった形の中で、今どんどん数値が今後出てくるのですけれども、悪い、危険だという形のものがわかったのを、いつまで放っておくのだというふうになってくるのですが、たまたま今回こういった後に3次の部分とかが出た中で、危険だとわかっているものを、できるチャンスが出たので、今回そういった形の中で前倒しをしたいというふうになった。これはあくまで3次補正は後追いの中で出てきた議論ということで、私どもは考えております。

やっぱり避難所にもなっていますし、給食施設についても、先ほどの避難所という位置づけもある中で、何とか3次補正の中のメニューに加えてもらえないかということの中で、私ども4カ所の中に要請をした中で来ているという経過もございまして、そのような形の中で今まで進めてきたということで、第3次補正の予算がありきだから、財政的なことを中心にして、今まで考えて進めてきたということではないということだけは、御理解をいただきたいというふうに思います。

○飯田委員

学校への説明会の中で、前提、検討内容として、学校給食は安全・安心なものでなければならない。民間委託や直営方式など。これを、だけれども法律的な運用にも努めなければならないということでここに書いてあります。これを第1に、やっぱり受益を受ける児童、それから保護者、今後当然直営化、親子になる中学校なり、それからつくろうの小学校にしたって、上がる児童がいる。やはりその地域の中で、しっかりと初めに説明する責任があるのではないですか。教育委員

会が、こういうような前提でやってきて、検討している中で、やっぱり検討の中では、これだけ2カ所に調理減により、運営コストが浮くとか、それから生徒数が減るとか、それから親子方式やっているから影響ないとかと言っている。これはやっぱりコスト、効率化を求めている。それが実際、今回やるに当たって、数は多いのです。網小、一中、それから南小、特に南小、三中で。そのときに、つくるほうは多くつくると。多くつくらなければならないから、どうしても時間かかったり、今までやってきたさまざまな、2分の1ぐらいでやってきた方式で、自校のものができなくなるものだってあるのです。

特に、中学校だって中学校の自校でやってきたことができなくなる。それを今後中学校になる地域の父兄、それから小学校にこれから上がる地域の父兄なり、父母にきちっと説明する責任は、初めに持たなければならないのではないですか、教育部長。

○小田島学校教育部長

今のお話の中の説明の部分、どの段階でどこまでするのかということのお話だというふうに思いますけれども、まず私どもは現在の部分の実際に学校に通っている保護者の方を中心にしてきたというのは、これは事実です。少なくとも親子化になる部分の4校の方々を含めた中で、こういう形の考え方で進めておきますということで、説明会の部分の案内等もさせていただき、実際に先ほど委員が、そこについては少なかったもので、それらの集め方を含めてどうなのかということのお話もありましたが、実際に事前にその中でお話をする中で、PTAの役員さん方に集まっていたいただき、こういう形の部分の保護者の説明会をさせていただくということの話をし、それから事前に学校から全保護者に案内を配っていただき、それに質問等、あるいは疑問に思っていることがあれば、それもアンケートでお寄せいただきたいということの部分のペーパーを出していただき、それから学校だより、その他でも周知をしていただいているといったような形の中で、最終的に当日のお集まりをいただいた人数が少なかったというのは事実であります。その中で来ていただいた方々には、本当に不満に思っていることとか、疑問に思っていることを直接お話をさせていただき、その中で納得のいくような説明を、また、御

理解もしていただいたというふうに思っています。

そういった形の話については、また学校だより等で実際にあったことのお話も、再度結果報告等も学校だより等でしていただいていますし、そういった形の中のことをやってきている中で、いまだに学校に対しても、私どもに対しても、親子化説明会、あるいは親子化に関する部分の質問なり、そういう反応がない中で来ておりますので、網走市の今まで進んでいる分含めた中で、給食の今回当事者校を含めて、ある程度御理解は得ているというふうに思っております。

それから、つくる数がふえることよっての対応がどうかという御心配のお話しもいただきましたけれども、それは私ども市の職員が責任を持ってやるということで、それは市の中の合意という形になっております。実際につくる人間、携わる人間たちの中の部分のお話になりますので、施設対応も、数に間に合うような施設対応を今回するというように考えておりますので、その辺については、責任を持って進めていくというふうに考えてございます。

○飯田委員

責任を、そんなような意見が上がってないと言いますけれども、実際今回の議会で誓願が上がっている。16日にやりますように、そういうことから言うと、私は教育委員会のその地域におろす。それは、私はクラスごとにやっぱりやるような重大な仕組みの変更だと思うのです。ましてや、地域に話すときに、教育委員会が住民説明、いろいろやっていますよね。市長が各地域に行って、そのときでも学校給食のことが教育委員会としてきちっと提起、市の住民との懇談会なり、そういうところで説明の項目か何かに入れたということは聞いていないのですけれども。

○小田島学校教育部長

13日に開催予定、あす開催予定の教育推進会議の議題としては、一応考えています。

○飯田委員

それは、すべて方針が決定した時点で行うべきことではないのですか、教育委員会。議会に出すのは別ですよ。教育委員会として、学校のPTA、それから学校の説明会に、本当に一つの学校で一けただとか、PTAは集まりの中でやるのですけれども、だけれどもさっき言った、親子の親

のところでの地域、例えば網小だったら、網小にこれから上がろうとする、それから中学校は自校でなくなる方式のところの子、そこでやはり住民の説明会なり、市でやる中で、当然教育委員会として議題に上げて、こういうことで方針決まってやるというのは、詳しい内容を説明するべきでないか、それぐらいの仕組みの変更でないですか。

○小田島学校教育部長

先ほどもいろいろな形で、教育長からもお話をさせていただきましたけれども、私どもは前提として、今までの親子の部分を含めた中で網走市の方式として、一つそれは運営主体として確立しているというふうな認識にありました。そういった中で、今回の部分の中で、今お話しがあったような部分があるとしたら、それは私どもの説明が至らなかったというふうに指摘されるのかもしれないけれども、まず私どもは、今現在直接にそのところに通われている保護者の方々を、まず中心にして進めてきておりますので、その辺の配慮はどうだということのお話かなというふうに思います。

私どもは、先ほども言ったように、網走市以外のまち含めたすべてのところが、近隣がセンター方式という形の中でいる中で、私ども先ほど話しあったように、網走市が直営で、しかも今まで自校方式を中心とした形で、何とか網走の給食を残してきているという部分も、そこに大事にやっぱり考えてきております。ただ、財政のことという話になりませんが、それをどういう形で直営で、その形に近い方法で残していくかということを主体的に考えたときに、既存のやり方と同じような形で、それを網走市の方式として残していきたいというところの気持ちのほうが実は多かったというのは、これは確かにあります。

いずれにしても財政の話でなく、行政の基本的な部分として、最小投資の最大効果を求めなければならない、それは意識しなければならないというのも当然一方で大きくあります。だから何でもかんでも行政の部分の効率化で考えていいのかということは、全く毛頭思っておりません。ただ、先ほども言った、私たちは学校という施設を預かる子供たちの部分を考えてときに、やっぱりそこを一番に考えた手法として、今回そういうことができてきたということで、御理解をしていただくように進めてきたつもりです。

○飯田委員

何か、その手法がおかしいですよ。その手法の説明が至らなかったとかそんなので、どうしてそういうことを本来考えなかったのか。仕組みの変更ということからすれば。だから財政的視点ではなしに、学校給食がいかにあるべきか。大きな、乖離してますけれども、今までの親子方式やって支障なかったと。だから親子でやっていくのだけれども、そこにはやはり地域の声というのはなかなかわからない部面があるから、教育委員会が地域住民懇談会か何かで、その辺をしっかりと何回も話ししていかなかったらわからないことではないですか、手法の問題ではなしに。

○小田島学校教育部長

先ほども申し上げたとおり、私どもは一つのスタイルとして、それはもう方式として確立しているという認識のもとで進めておりました。網走市のAとBの学校が、隣のCとDの学校がやっている方式と同じ形に変わるという部分の話だというふうなことでの進め方ということで来たので、実際にそこに関係する、当事者になる方と言うか、そこを主体的に話をこれまで進めてきたというのが、私どものやり方だということです。

○山田委員

飯田委員が何点か質問してやりとりしているのですが、ちょっと冒頭、私の整理含めてお話しさせてもらいたいと思いますが、私も5日のときに、確かに今部長から言われているように、過去の四つの箇所の親子方式というのは、それぞれそのときの背景、事情によって決めてきた経過がある。単独方式というのは、基本的にはもうわかっていたように、一つの学校に一つの給食の施設がある、これが単独方式です。ただ、認識の関係で、親子も一つの単独だという考え方もあるのかもしれない。

それで、入り口論議と言ったら大変失礼な言い方になりますけれども、そこがはっきりしないと中に入っていけないのか、そこをきっちりしないとまずいのかなとちょっと今勝手に思ったので、私は今回の経過考えますと、部長や教育長、副市長も御答弁される中で、親子方式というのが、4カ所に網走市の場合あるし、これを単独方式をちょっと形を変えた親子方式を、これから網走市の給食の方式として持っていくのだという基本認識があったという言い方がきつとされている

のだと。

こちらのまた認識と、それがいいか悪いかは、これからの論議だと思いますが、その認識と、議会側がまた各委員の考え方違うと思いますけれども、ここがぐっと行くと平行線になりますから。

それとずっと私も思っていますが、今回中身については、補正の22日の最終日に出てきて、総務文教委員会で論議をすることになります。それと8月に教育委員会で基本の考え方が決まりました。10月ごろには、もう各学校にも説明会をしている。議会はどうだったのだということで、委員長の配慮の中で、そちらに持ちかけたときに、そちらも同じような考えがあったということで、5日には委員会が初めて細かいところも含めての論議があったのだと思っています。

それで、私としては、今までの信頼関係というのは、誤解されたら困りますけれども、議会が、やっぱり理事者側も、これはお互いを軽視することなく、紳士的にやっぱり論議をしていくべきですから、私どもとしていろいろ思いはあってお話をさせてきていただいている経過の中で、決して軽視をするつもりもなかったし、3次補正と耐震化が一緒になった中でも、国とのやりとりや、明確に決まるまでの判断の中で、当初の12月7日が議会の告示だと思いますから、それまでの議案に間に合わなかったということです。

それで、私はその経過を理解をすることかということではなくて、御努力されたのは、私もわかるような気がしますから、そこはそこで認めつつも、結果としてこういう形になって、最終日にやっぱり審議するということになったこと。結果だけをとらえてですよ。これはやっぱり議会に対して、私は十分な形にはならなかった、なっていないだろうということは、私としても言わせていただきたいと思います。ただ、そのことによって、議論をしないということではなくて、これからほかの委員もいろいろ細かいことや、心配のことや、疑問も含めて話されると思いますから、ぜひその時間を尊重しながら、そして補正の出た段階では、会期も決まっていますから、この総務文教委員会で審議が未了になるような十分な審議ができないのなら、委員長の配慮の中で、議運を含めて開いていただいて、会期をどうするのか、委員会をどうするのかということ、その時点でまた判断してい

と思いますから、許される時間の中で、しっかり審議していったほうが私はいいと思うので、まず入り口の論議をしていくのか、中身に詳しく入っていったいいという形にするのか、ちょっとほかの委員質問できないではないか。失礼な言い方だけれども、こういうふうにしていきますと。

○小田部委員長

山田委員の発言について、特に求めたいと思うのですが、方針の性格をきちっと説明をしていただきたい、このように思います。

○小田島学校教育部長

今山田委員からもお話しがありましたが、私もこれまでの議会の中でも、網走市は大規模センター化については考えてないということで明言をさせていただきます。

次の選択肢として、自校・単独それぞれに給食調理場を持っていく、あるいは維持していく状況というのが、直営をそのまま維持していくには、施設改修も含めた中で難しい状況になっている。それで自校に準ずる方式ではあるけれども、センター化ではなく親子という形、共同調理場、1対1の関係になりますけれども、できるだけ自校に近い、こういった形の手法で、網走市の給食も今後も運営をしていきたいという形でのお話ということで理解をしていただきたいというふうに思います。

○小田部委員長

他に御発言ありませんか。

○古都委員

説明会の実施というのは、9月、10月にあったと思うのですが、それに対しての広報の仕方、どのような集め方をした上で、どのような説明をしたかというのが資料に書かれていないので、それについて御答弁をお願いします。

○渡邊管理課長

先ほども部長からございましたけれども、各学校を通して、その学校の保護者に御案内をしておりますので、先ほど言いましたように、例えばホームページに載せて御案内をしたとかということではなく、関係する学校を通して保護者の皆様に周知をさせていただいております。

また、集まっていた皆様には、この親子化を検討するに至った背景ですとか、先ほども若干触れましたが、検討の時期を含めて、どういっ

たことを前提に検討したか、そういった説明をさせていただきます。

また、親子化のその時点での計画ではございましたが、説明をさせていただいております。

○古都委員

では、その学校に対しては、保護者の皆さんにプリント物を配付して知っていただくような形など指示までされた上で行き渡ったのかということ、親子化のメリット・デメリットについても、しっかりと御説明されたのかというところが、その辺をお願いします。

○渡邊管理課長

案内は先ほど申しあげましたように、各学校を通して配付させていただきました。そのときには、事前に御質問、御意見等を受け付けできるような、そういったペーパーもつけまして案内すると同時に、そういったものも受け付ける、そういうスタンスで取り組んでまいりました。

それから、メリット・デメリットにつきましては、当然保護者の皆様、それから教職員もやりましたけれども、教職員の皆様から、そこら辺の御質問をいただきましたので、口頭で説明させていただいたのと、事前に質問ありましたら、それについてはペーパーを用いて回答しております。

○古都委員

耐震化のときの話にもなるのですけれども、1次診断の基準を出したときに、保護者に行き渡っている部分と、クラスで簡単に説明されただけの部分で、かなり学校の中でも対応が分かれたりしたのもありましたので、その点までしっかりと行った上で、保護者に行き渡るようにしたのかというのが今の質問。

あと、極論を言ってしまうと、親子化に対して、親御さんがどこが一番心配されているかというのは、今まで自校方式で、アレルギーとか持つお子さんに対してのケアがしっかりと、自校方式のほうが小まめにできていた。それは親子化に対して、どこまでそれができるのかというものがあると思うのですが、その辺はどのように、方針出すのでしょうか。

○小田島学校教育部長

今のお話で、実は今回の中で、実際に説明会の会場に来られて心配される、実際にそれがどういう形になるかということで聞かれたというか、そういう心配を持たれている方がやっぱり多く説明

会の会場にはいらっしゃいました。

アレルギーの対応につきましては、各学校ごとで、今までいろいろな対応がばらばらだったりとかいったようなことが実はあったりしまして、ただ、今アレルギー対応につきましては、非常に品目数と対応についてはかなり多くなって、個人差が非常に大きな問題というふうになっております。

食物アレルギーのときにアナフィラキシーとか、直接命にかかわったりする、あるいはものによっては湿疹が出たりいろいろな形のものがあるという状況がありますので、それらについては、市として統一的なアレルギーについての対応策というのを統一してございます。これはことしの春からですけれども、そのときにはアレルギー対応で、医師の診断書をきちんとした中で出していただき、それらの対応するという部分で、これについては親子になったとしても、例えば特に小学校の学校にいらっしゃった方が、そのまま例えば中学校に上がられて、そのときにはそのときの状況もすべて引き継ぎをされるというか、実際に給食をつくって出るところは同じですので、そういった情報等も含めた中で対応する。特にアレルギーは、毎年毎年の変化もありますので、それらについても学校現場と情報の連絡をきちんと取り合った中で、お子さんの安心・安全な命にかかわるものもあるということで、それは私どもも対応できる範囲いろいろありますが、それらについて相談をさせていただきながら、対応については考えるということでお話をさせていただいております。

○古都委員

対応という話なのですけれども、アレルギーの場合、やっぱり親御さんが自分のお子さん持つに当たって、一番心配しているところなのですよ。その中で、今の口頭のように対応します、こうやってやりますという中でなくて、細かい部分で、こういうシステムで一人一人のお子さんに対して、今部長は各学校ばらばらと言っているけれども、その各学校がばらばらではなくて、その各学校が自分のところの生徒に対して対応していたから、端から見るとばらばらに見えるだけなのではないですか。その部分に対して、もっと細かいところまで、親子方式でもここまで対応するから大丈夫ですよというしっかりとした説明がないと、

口頭で対応しますから大丈夫ですではなく、その部分をしっかり説明したほうが私はいいと思いません。いかがでしょうか。

○小田島学校教育部長

それは今までの中で、学校現場でなく、私ども栄養士も含めた中で御相談をしているものがありますが、基本的に、給食は集団大量調理ということの部分で前提でつくっております。その中で、アレルギー対応をどこまで対応ができるのかということの部分での、そのレベルの話になるかと思いますが、先ほどもお話したように、お子様一人一人がいろいろな形の状況があり、例えば生卵はだめだけれども、ゆで卵はいいとか、卵焼きはいいとか、一つとってもいろいろな形の状況がそれぞれお子さんが違う中で、ではそれであると調理過程の中で取り除くことができる分については可能だけれども、例えばそれがそばにあるだけでもアレルギー発症が出るとかいろいろなパターンがございます。そういったようなことも含めた中で、御家庭の中の対応、それから学校としてできる対応、それらについては、先ほど言ったようにアレルギーについては、きちんとした診断も含めた中でどういう対応、あるいは除去食、もっとできなければ、お弁当持参の方もいらっしゃいますし、それは個々の中で、学校として対応できる基本的なラインということをお示しをした中で、それでできるできないということの部分の保護者との相談体制をした中で今までもやっておりますので、それについては親子になっても変わらないということの説明をさせていただきました。

○小田部委員長

質疑の途中ですけれども、5分間休憩します。

午前10時59分休憩

午前11時05分再開

○小田部委員長

休憩前に引き続き再開いたします。

質疑を続行します。

○古都委員

今のお話の続きなのですけれども、親子方式であろうが、自校方式であろうが、アレルギーについての対応というのは、むしろよくなるとかではなく、変わらない対応をしますということによろしいのでしょうか。

○小田島学校教育部長

はい、そのとおりです。

○小田部委員長

他に。

○金兵委員

先ほどいろいろ御説明いただいた中で、ずっと学校のほうで説明会をされてきたというお話をしていたのですが、まず説明会の日程をちょっと教えていただけたらと思います。

○渡邊管理課長

まず、9月26日でございますが、網走小学校におきまして、網走小と一中のPTA役員さんに説明をさせていただいております。続きまして、9月28日、南小学校において、南小と三中のPTA役員さんに説明をさせていただいております。

続きまして、10月5日、第一中学校の教職員説明。10月6日、南小学校の教職員説明。10月7日、第一中学校におきまして保護者説明。10月12日、南小学校保護者説明。10月21日、網走小学校教職員説明。10月24日、第三中学校教職員説明。10月24日、第三中学校におきまして保護者説明。10月25日、網走小学校保護者説明となっております。（発言する者あり）

申しわけありません。もう1回復唱いたします。

9月26日、網走小学校で網小、一中のPTA役員説明。9月28日、南小におきまして、南小、三中PTA役員説明。10月5日、第一中学校教職員説明。10月6日、南小学校教職員説明。10月7日、第一中学校保護者説明。10月12日、南小学校保護者説明。10月21日、網走小学校教職員説明。10月24日、第三中学校教職員説明。10月24日、第三中学校保護者説明。10月25日、網走小学校保護者説明。

以上でございます。

○金兵委員

これは9月26日から10月25日、1カ月間にわたって各学校PTA、教職員、保護者に対して説明会をされたということだったので、こちらで配られた資料というのはすべて同じ資料ということでしょうか。

○渡邊管理課長

こちらにつきましては、今回親子化ということで、二つの組み合わせがありますので、基本的な造りは一緒でございますが、一番最初に学校の現状の資料の部分がございまして、そこはそれぞれ

の校区に合う形で、例えばその学校の調理室の建築面ですとか、児童生徒数ですとか、そこら辺は入れかえて二組用意させていただきました。

以上です。

○金兵委員

それぞれ南小学校と三中バージョン、網小と一中バージョンという形ということで理解させていただいてよろしいですか。

その中で、先ほど説明会の中での御質問であるとか、各クラスのほうから保護者のほうに質問があればということで、ペーパーを配られたという御説明があったのですが、一番保護者の方々が気にされていた問題というのは、どういった点がありますでしょうか。

○渡邊管理課長

やはり、まずなぜ親子化なのかという、そのメリットがわからないとか、あと説明会開催に至った経緯ですとか、そういったことがありました。あと、今まで、新たな親子化になりましたら、こういった業務はだれがするのかとか、あと先ほどもありましたけれども、やはりアレルギーをお持ちのお子さん、その保護者につきましては、その部分について話を持たれて、質問等がございました。

○金兵委員

いろいろ御質問があったということだったので、その都度御説明をして、理解をさせていただいたということで先ほど御答弁があったのですが、ペーパーでの御質問の方には、ペーパーでお返ししたという形になるのでしょうか。

あともう1点追加で、その会場にいらっしゃらなかった御質問に対しては、会場でこういう質問もあったので、こういう御説明をしていますという説明はあったのかどうかというのを伺いたい。

○渡邊管理課長

当初、学校を通して御案内した際に、先ほどの用紙を配付しまして、それをあらかじめ受け付けました。それにつきましては、事前にいただいておりますので、回答の中身をつくりまして、当日、先ほどの資料とともに説明会場で配付しております。

なお、当日来ていただいた方が、その場で御質疑された部分につきましては、そのようなことは

行ってございます。

○金兵委員

さらに今後こういう委員会で議論がありまして、また先に進んでいくと思うのですが、その都度の今後の保護者の方に報告という形は、どのような形を考えられているのでしょうか。

○小田島学校教育部長

今のお話の中もそうなのですが、今回の会場に来られなかった方に対する部分に、どういうふうな形でお知らせができていくかということも一つあるかと思いますが、学校によっては、今回の親子化において、説明会の内容等について、学校だより等を使って流していただいている学校もございます。

今後の進み方含めて、どういう形になるかというのは、まず先の話になりますが、例えば今回まだ上程前ですのであれですが、スケジュール等が決まってきた状況になれば、それはこういった形で進むということ、また改めて説明をさせていただかなければならないというふうに思っています。

○小田部委員長

部長、後段の部分はいいと思いますが、前段のこの委員会の経過について、保護者に説明するか、するわけがないでしょう。それ明確にしないとだめですよ。問題の、質問の趣旨に、一つ一つ答えて、今後のことは、後段の部分はいいです。

○小田島学校教育部長

質問のとらえ方が、もしかするとちょっと間違っていたのかと。ここの委員会で行ったことに対する報告というのは、それは考えておりません。

○金兵委員

わかりました。

あと、今後親子給食というのは配送になると思うのですが、その配送について、配送の途中で何かあるかということがあれば、給食は当たらないという形に、事故があったりした場合はどうですか。

○小田島学校教育部長

基本的には、配送をするということになれば、当然配送中のリスクというのは想定されると思っております。配送については、これも市の職員が責任を持って行うということで、市の内部でも意思統一ができておりますので、それらについて

は、基本的に事故を起こさないことが前提です。世の中の物流の関係の部分と同じような部分で、事故はあってはいけないこと、起こすことは想定しておりません。ただ、しかしもしも事故とかいろいろなことというの実は想定はされますが、その段階においては、その時期ですとか、その状況ですとかいろいろなことがありますので、それは実際にその起きた時点においての状況によっての判断が出てくるかというふうに思います。

もしかすると、あってはならないことですが、その状況において、例えば運べなくなったりする状況があるとすれば、そこは一時期、その日のその部分については、欠食になる可能性もあります。ただ、基本的には、あってはならない前提の話だというふうに思っております。

○金兵委員

私も車運転しますけれども、事故りたくて事故することはまずないので、ただやっぱりそういうことも考えておかないと、今後、では給食なくなりました、ではどうしますかと、その場で起きてしまってから考えるでは、どうしようもならない気がします。

○小田島学校教育部長

給食については、例えばその段階において、もしかするとパンが配送されてない場合もあるかもしれません。あるいは、牛乳が配送されていない場合もあるかもしれません。調理物としてつくったものの配送の関係において、そこが間に合わなくなるということになれば、それはもしかするとパンと牛乳だけで、その日になるかもしれませんし、あるいは逆にパンのない日だって出るかもしれません。それは、そういう状況があった中で、何らかの補完措置ができるかどうかということも含めて、時間帯もありますので、その辺はその状況に応じた対応だと。ただ、今からこうなったときにどうするという状況についての想定は、ごく一般的なものしかしていないというのが実情です。

○金兵委員

子供の給食にかかわることですので、できれば最悪の状況というのは、考えておく必要があるのではないかなと思います。

終わります。

○高橋副委員長

今、アレルギーのお話がありましたけれど

も、岩見沢で食中毒が起こったとき、教育委員会として、保護者でありますとか、そういった調理する側の人に対して、どのような対応をされたか伺いたいと思います。

○小田島学校教育部長

本当に残念な事故ということで、岩見沢で発生しましたけれども、その事故解明等を含めて、かなりの時間を要した部分というのも実際ありましたが、私どもは給食調理場が事故の、食中毒の原因場所になったということの中で、やっぱりその施設の老朽化、それから人が幾ら注意をして食中毒を起こさないような形で取り組みをしておりますけれども、それについてもやはりある程度限界があるという中で、今回は施設の老朽化、器具の老朽化等も、その要因として一つあるという状況の中で、私どもも施設の老朽化等が問題となって食中毒事故を起こさないように努めなければならないというのは当然思っております、まずはそのときに学校長を含めた中での学校現場に対する、こういった事例の注意喚起、改めて衛生管理の部分、消毒等を含めた中での指示を、給食調理員を含めた中での徹底ということで通知をいたしております。

○高橋副委員長

大腸菌が一番厄介なものだと思うのですが、私も以前食品扱った会社にいたことがありまして、そのとき本当に、特に輸出しなければならない食品ですと、大変それこそ何ミリ画の中に1個でも入っているというようなことをよく指導されておりました。そういった消毒の方法も、これはもう今は確立されておりますけれども、本当に一人一人が注意していかなければならないと感じています。当市では絶対起こしてならない、そんなふう要望していきたいと思っております。

以上です。

○古都委員

一中と三中の給食室の親子化にかかわって、一中と三中の給食室はどうするのだと。今後考えている検討の見解をお願いいたします。

○小田島学校教育部長

いずれにいたしましても、給食の調理に関する部分の設備、備品等の中で、使えるものについては、ほかの部分の給食調理場で使ったり、その有効活用も考えております。ただ、そこはもう給食調理場としての施設ではなくなりますので、学校

と協議をした中で、こういった形の使い方がいいのかも含めた中の協議をさせていただくというふうに考えております。

○飯田委員

前段は、そもそもの視点で始まったのですけれども、今各委員からいろいろ出ていました。出た中で何点かあるのですけれども、今まで支障なかった、親子給食で10年。そしてその支障なかったということの認識は、今各委員から出ていた配送の問題とか、アレルギーの問題等について、さまざまな問題について、どのように認識して支障なかったという認識は。

○小田島学校教育部長

最初の議論の中で、まず配送ということで、食缶によって運ばれたものの温度低下とか、いろいろな形のもの懸念されるという話がありましたけれども、それについては想定しているようなひどさとか、冷たかったりとかいろいろな状況は、まずなかったということで、これは承知もしておりますし、それから各学校、小学校、中学校で行事とかがあった場合に、それぞれどういった対応がされるのかとかということも、これは両校の中の協議の中で、実際に支障なく運営されています。

例えば小学校がやっていて、中学校でやってない場合については、小学校だけの調理になりますし、逆に小学校に調理場が今ついています、小学校が休みで、中学校が実はやっていて給食は必要だという場合も、それも給食調理員は中学校の分をつくったりとかということで、実際の学校運営の行事等の中で、支障が出ないような調整を上手にとった中で現在進んでおります。

○飯田委員

私は、それは現場の意見を余り聞いてないので、一般的なあれだと思ふ。現場の給食調理員、今は正規職員何人、非正規職員何人ですか。

○渡邊管理課長

正規職員は9名、パート調理員は36名となっております。ことしの4月でございます。

○飯田委員

私は聞いてみました。今回の親子化に当たって、もうほとんど非正規職員、1年契約の職員がもう7割ぐらい占めているというのが現状、以上を占めているということで、この現場の意見を聞きましたか。

○小田島学校教育部長

パート職員だけを集めて、これらに関する説明会というのは行っておりませんが、パート職員に対しては、毎年2月ぐらいに一人一人面談を全部しております。現在の働いている状況、あるいは体の状況、その他来年度に向けての話、網走市の今後の考え方を含めた中で、個別にそれぞれ意見を聞いたりしております。

聞いておりますかという、その意味の部分なのですが、パートだけを限定した親子化についての意見聴取というのは、それはしていませんが、そういった形の中の個別面談をした中での面接の中で、その更新等については話をしておりますので、特にそのときに意見を求めたということはないですけれども、話はしております。

○飯田委員

その面談では、今これ学校給食の是非で、さまざまな委員からアレルギー対応だとか出てましたよね。それに対して、パートの職員に対して、そういうような親子給食でのものについて聞いてますか、是非とか、いろいろこういうことがあるとなったら、こういうことがあるというようなことを聞いてますか、デメリットも含めて。

○小田島学校教育部長

そのことに限定した部分の聞き方は、してません。

○飯田委員

限定と言うか、一番つくり手、やっぱりそこをどうして聞かないのですか。ましてや、先ほど課長が、アレルギー対応の話出ていました。対応すると言うのですけれども、例えば私が聞いたのは、青魚がだめな子供には白身魚で、こういった代替食は親子給食になったら出せない。これ実際今やられていること。単独方式だったらできるのです。だから一つでしょう、アレルギーの対応。そういう実態だって、これは現場では認識しているのですか。それが対応できると言ったから、だからどんなような対応なのか。

○小田島学校教育部長

先ほども話をしましたけれども、学校の調理現場の中で対応できる範囲というのは、基本的に決まっているというふうに思っております。それで、個別の対応がどこまでできるのかということが例えばある中で、例えば単独校の調理場においても、その状況において、例えば違う単独校に

行っても、その部分の中で対応ができるできないとか、いろいろなやっぱりその市内の中での対応がいろいろな形の部分でばらばらで、個人の能力によって対応できるできないという形のものがあつたというのも、それも実情であります。ですからそういったことも踏まえた中で、網走市がアレルギーとして、学校給食として責任を持って対応できる範囲ということ、ある程度の一つの方針として示させていただいた中で、それはことし各学校長から、アレルギー対応をしていただいている保護者の方々とその辺についてのお話、それから来年以降の、先ほども言いましたように、命にかかわる問題ですので、必ずしも好き嫌いではなくて、こういった状況で食べられないとかというの、きちんとした医師の診断書も含めた中でやっていたくような形の統一を、もう既に始めた中でやっております。そういった一定の中で、同じようなアレルギーの対応が、どこの学校に行っても同じレベルでできるようにするという形のことで考えているということです。

○飯田委員

答えとして、なっていないと言うと失礼ですがけれども、実際今やられている学校での担当者が、この一つの例を挙げて、代替食は出せずに除去のみというのが、親子で実際あるのだと。今まで単独でだったら、それも最小限できた。要するに、親子だからできない。要するに多くつくるとか、それからそういうような対応、つくってしまつて送ってしまったとか、そういう声をやっぱりもっと拾うべきでないか。さっき部長が言った対応できるというのは、そういうことを全く考えてないで対応をすると言うのか、それとも万全なる対応策が、こういうような除去する、代替食は出せずに、除去するのみというのができるのかどうか、その辺まで調べているのですか、さまざまなアレルギーの事例に対して。

○小田島学校教育部長

先ほども言いましたように、どこの部分においても、網走だけに限らずの話ですが、学校給食で対応できる限界というのは、おのずとあるというふうに思っております。そういった中で、保護者の方と、例えばうちの栄養士も含めた調理人の中で、どういった対応がここではできるのかということをやつた中で、これまでも進んできております。そこについて、その食数が多いところの単独

校と、食数の少ない親子のところでは対応がどうなのだというのは、それは食数とか、そういった形のものだけではない理由がいっぱいありますので、そこは一概に言えるものではないというふうに思っております。

○飯田委員

どうも部長の、他校が、ほかの地域だとか、現在網走の10年間やった中央小と二中、それからその他ありますけれども、私が一番かかわった10年前の中央小と二中の現場の人が、アレルギー対応ができないと、現在のままだったら、できなくなったのだということに対する認識を、保護者がわかるのかと。それは一般的な抽象的なことで、ほかではそんな程度はなかなか対応できないとかできるでなしに、実際中央小から二中の中での、そういう思いでつくっているのですよというようなことを把握して、それに対する対応が、では親子でできるのかという答えをちゃんと教えてください。

○小田島学校教育部長

先ほどもお話し申しましたけれども、基本的には統一的な部分で、今は個人の能力の中でできないという話になっては、私どもは逆に困るというふうに思っております。Aさんという人が、個別の対応でここまでできるという能力の方がいたとして、それがBさんという人がそこにかかわったことによって、Aさんができたことが、同じことがBさんができるのかできないのかという話の部分で、いろいろなそういう状況も、先ほど言いましたように、アレルギーの特質とか数もいっぱい出てきている中で、つくる側にしても、いろいろな混乱とかいろいろな状況が出てきているといったことがある中で、ある程度うちは統一的な基準という形で進めているわけです。

今までできたのが、親子だからできないということの部分の整理ということではなくて、先ほども言ったように、最終的にそこに個人の能力というところの部分でのアレルギー対応ができるできないというふうに、周りからそういう状況になるのが、既にそういう状況が起きているということのも、実は現実でありますので、そういったことのないように、ある程度の一定の基準を私どもで示しをしているということで、これは御理解をいただくしかないのかなと思います。

○飯田委員

全然理解しない。起きているということ、私は言葉じりをとらえるわけではない。現実的に支障はあるのではないですか。アレルギーに対して、一つとっても、だって今まで親子でさえ、完全なる対応はできてなかったのを、今現場の人は、例えば青魚がだめな子には白身魚といった代替食、今まではできたのです、いろいろ。ところが、親子になったので、それを親子で、要するに二中でつくってないものですから、多くつくるとどうしても大きなものしかできないということの範囲の中で、除去しかできないよというような事例が今まで何回もある。メニューも当然違ってくるのだと思います。さまざまな方法、支障があるのです。だから親子でも完全でないものを、余計つくる、片一方ではつくってない。目が届かないとなれば、大きな支障ではないですか。

○小田島学校教育部長

アレルギーに対しては、先ほどからいろいろお話をさせていただいておりますけれども、直接お子さんの命にかかわる部分ということで、大きなそれは責任のある問題としてとらえております。親子の中とか、単独校だとか、そのつくる側としてどこまで、集団調理という給食体制の中で、個別の対応がどこまでできるのかというところのお話になるというふうに思っています。そこは、直接保護者の方と相談をさせていただいた中で、学校給食としてできる範囲はどこまでです。それにかかわるものとして、例えば先ほど言いましたように、うちの子はここについては対応できないのでお弁当にしますとか、あるいはこれは除去だけで大丈夫ですからとか、それはもうそれぞれお子さん一人一人によって違いますので、それらについては、保護者の方といろいろ相談をさせていただいて、お互いにある程度納得できるような状況のところまで進めてきているというふうに思っております。

○飯田委員

だけれども、親子にしたら、片一方でつくってないのですから、やっぱり対応すると言ったって後退になるのです、アレルギー対応の。自校自校でつくるのと、親子で運ぶのと、今でさえ現場がそういう意見持っています。だからもっともっと現場の意見というのですか、今のパートの方の意見、特に現在親子をやられているところ、現在やっていないところの意見をしっかりと聞くべき

ではなかったのですか、今この計画に入るのに。

○小田島学校教育部長

実際に、先ほどお話し何度もいただいておりますけれども、私どもは直接的につくる側の立場の人たちと、どういう形でそのアレルギー対応を含めて対応していくのかということ、議論はしております。その中で、現場からの対応をするための話として、ある程度そういう形の一定の線というのは出してもらいたいというのも、実際にはこれはある話です。

今の親子だから、単独校ということではなくて、単独校から単独校に移った場合においても、その部分が前の体制でできたけれども、同じ単独校でも、今回の中ではできないとかという状況があったりするということも、これも事実ですので、親子だからできなくなる、単独校だからできるという、そういう問題ではないというふうに私ども判断しています。

○飯田委員

部長は、もう親子が自校方式に準ずるというようなことをきちっと基本点に置いているから、そういうような議論の展開になると思うのですけれども、私は今現場で聞いていると言ったけれども、正規職員9人、それから非正規職員36人の声をもっと聞いてやるべきだと思うし、例えば先ほど言った学校独自の行事食も厳しいのではないか。従来中央小と二中が10年たって、今までやっていたものがなくなって、今現在、では南小と三中でもどうかといったら、南小では青空給食、紅葉給食ということで、今でもいろいろやったりして、三中の分もつくると、なかなかその時間がなくてできないということになるのではというような現場の声もあるのです。その辺について、現場の声を聞いてないから、自校方式のほうが、本当に食育と言うか、学校給食が食育に与えている影響というものをやっぱり聞くべきでないですか、現場の調理員に。

○小田島学校教育部長

つくる側との中は、それは内部の話になりますから、それについては、現場の給食調理員等を含めた中で、これまでもいろいろな形の中で話をできております。つくる体制の部分とか、それらについての方式等については、まず市の職員が責任を持って学校給食調理に当たるという中での意思統一の中で進んできております。その中で、さ

らにそれをよくするために詰めなければならない部分は、まだまだこれからたくさんありますけれども、進め方、方針等については、先ほども言ったように、市の職員が責任を持って、一丸となって今回進むということになっておりますので、その辺も含めて、市が責任を持ってそういう形でやりますということは、これは保護者説明会の中でもお話をさせていただいております。

ですから、そういう形の中で進めていきますので、今後発生するさまざまな懸念される問題はあられるかもしれませんが、それはまだ発生も何もしてない中で、今お話しちらっとありましたけれども、それは今後詰めていく部分になってくるかなと思います。

○飯田委員

非正規職員も、市の職員ですね。一丸となってという、その現場の声聞いていないのに、何で一丸になれるのですか。

○小田島学校教育部長

聞いてないから、一丸になってとかというお話ですけれども、先ほども言いましたように、私どもは給食調理員として、パート職員も市で雇用されているのは市の職員で、それは責任ある立場だというふうに思っています。

先ほど言いましたように、個別の分の中で、いろいろな形の中で、それぞれ面接をして聞いたりいろいろな形の部分、それから市の今後の進め方含めて、いろいろ話をしておりますし、ことしもまた、来年すぐあると思っておりますけれども、そういったことを経過としてずっと来ておりますので、そこについては、今回の進め方についても、全くそういうことを外に置いた形で進めてきているというふうには思っておりません。

○飯田委員

面接面接という、そういうことでなしに、契約は1年契約で、非正規なのですけれども、つくるのにおいては、同じ人格でつくっている。だからこそ、そこの人方の意見を聞く。その面接のときに、市の方針はこうだから言うこと聞きなさいという意味ではないでしょう。だから一人格だったら何も契約は別さ。まず、私たちはそういうことで正職員を不補充しないで、自校方式とともに正職員を補充しなさいと前々から指摘しています。だけれども、部長の話では、契約のときにどうのこうの言って聞かせるようなことではなしに、一

人格として正規も非正規も同じなら、どうして今回の親子になったときに、この人方も含めての意見を聞かなかった。

○小田 島学校教育部長

契約のときにとかということではなくて、私どもは1年に、現状を含めてそれぞれパートさんの部分で、現在の仕事の状況ですとか、体調ですとか、いろいろなことを含めた中でお話をさせていただいて、聞き取りも含めた中で伺っているということで、契約交渉のために、市がこういう形だから、それに従って働きなさいという形だからというのは、私どもはしているつもりはありません。

○小田 部委員長

ただいま飯田委員の質問点、あるいは質疑に対して、委員長として委員の皆様を含めてお諮りをしたいと思えます。

本件はもう御案内のとおり、自校方式から親子方式に2カ所拡大をする、こういうふうな方針について今まで質疑をいただきました。特にその過程の中で、あるいはそういう諸問題の中で、アレルギー問題というのは、これは特筆すべき、健康と命にもかかわる問題だから、もう十に十を重ねて配慮をし、対応するように、こういうふうな考え方のもとでの大事な質疑をいただいたのだと、このように思っておりますし、このことについては、委員会全員の認識と、その気持ちは共有できるものがある、このように思っています。

よって、この件につきましては、これまでの過去の10年、そして今回のいろいろ指摘された、あるいは懸念される諸問題、こういったことについて、より万全、適切を期すような現場、それから校長を含めた学校、そしてそれを指導する教育委員会、そういうふうなところが、このことを深く重く受けとめて、今後の対応に資していただきたいと、こういうふうなことで、この問題は、一応この点についての質疑は終了してよろしいですか、飯田委員。委員の皆さんいかがですか。

○飯田 委員

継続と言うか。

○小田 部委員長

もちろん、対応を求めて。

○飯田 委員

まだまだありますけれども、ほかの部分やりませぬ。

○山田 委員

委員長から今そういうお話あったのですが、私も何点か聞きたいこと。

○小田 部委員長

この件について、アレルギー体質の問題、それは宣告しているでしょう。それ以外の問題はどんどんこれからまた、時間ありますから質疑していただきます。よろしいですか。

この自校から親子に移行する過程の問題として、アレルギー対策の問題については、もう極めて教育委員会の関係の対応について、配慮をいただくことをお願いをして、次の質疑に入ります。

○山田 委員

ちょっとアレルギーのことで出ましたけれども、基本的な考え方です。部長も教育長も御答弁されています。給食は市として責任持って子供たちに食べさせる大事な食育の一貫だと。そういう意味では、安心・安全は絶対守られなければならないことですし、その認識はあるというふうに私も確認を含めてさせていただきます。

それで、今回については、先ほども話させていただきましたし、5日の日にも私からもちょっとお話をさせていただいたのは、それぞれ親子が導入をされた経過の中で、その年、その時期の背景があつて判断をしてきた。私個人はそう思っています。

それで、今回は、皆さんから説明あるように、岩見沢で一つああいう大きな食中毒もあつたということも含めて、衛生管理基準が非常に厳しくなつたと。これは歓迎すべきことだと押さえないといけないと思うのですが、それと当市の今の4校についても、築年まではちょっと今確認しませんが、相当30年近くか、30年を超えている学校もひとつあるということを考えれば、どこかの時点でその改修を、給食室の、これをしなければならぬということの始まりが、途中からあつたのかわかりませんが、当初からは、そちらの御説明とすると、親子は、理事者側の認識ですが、拡大をするという考え方であつたということ、これはこれとしてそちらの考え方。

ただ私の考え方は、一貫しているのは、単独方式というのは、先ほども言いましたように、一つの学校に一つの給食があつて、なるべくなら食数を少なく管理するように、職員の配置も含めてしていくことが、これは一番最善なのですが、そう

は言っても、財政面を考えなければならないということも、これ並行して考えていかなければならない課題だというふうに思っていますから、今までいろいろ議論をする中で、今の現状がこういうふうに網走市の給食の状況というのとはなっているのだというふうに思います。

それで、私はあくまでもやっぱり、今の学校が一つの給食室を守っていただきたいという思いは変わりません。ただ、そちらの状況として、背景として、先ほど言ったように、衛生基準の管理基準が非常に変わってきた。そして学校も古くなって、早くやっぱりいい給食室で給食をつくって配膳をするということが、これが一番ベストだと、こういう考え方で今進んできているのだと。ですから、親子の方式なのか、単独の方式なのかとなると、ここはちょっと私と平行線一つありますけれども、ただ5日のときに私から言わせていただいたのは、すべて財政・財政と走られると、私はもうここはきちり言わせていただきたいと思えます。今言われるように、安心・安全だということとは最低の守られなければならない。それと、部長が言ってましたけれどもセンター化、大規模な給食の配膳というのは、網走市としてはしたくないと。でき得れば避けたいと。できれば単独方式、自校方式を堅持をします。これは私どもの3月の代表質問、私もさせていたただいたときの教育長の答弁の中に、自校方式を堅持をしていきたい。ただ、親子方式も含めて検討しているのだという答弁があったのは、私も覚えています。ですから、ここで私がちょっと話したいのは、まず大きな形でのセンター、言わせていただければ、そういう方式は今後は全く絶対とる考え方は、今の段階でないということの確認と、それとどこかの学校で、説明の資料にもちょっとあるのですが、調理業務は民間委託ではなく、直営方式で進めたい考え方を基本的に持っておりますと。ちょっとこの2点、確認できればお聞かせいただけますか。

○小田島学校教育部長

先ほどもお話をいたしましたけれども、御答弁をさせていただいているとおり、網走市は今まで自校方式を優先的な形で、しかしいろいろな状況の中で共同調理、親子方式という形の選択でやってきております。今回の教育委員会の中の議論の場においても、やはりそういった過去の歴史も踏

まえた中で、網走市は将来的にどういう形が望ましいのか、特に議論の中心について、二次行革では民間委託を前提に検討という形の位置づけにされていた。そういった状況の中で、どうあるべきかということの中で検討を進めてきました。その中で、センター化の部分なのですけれども、基本的には、今から網走市で大規模センター1カ所集約型で行うということについては、今までの流れ含めて、網走市の中で今すぐにそういった形でセンター化しようという話には基本的にはならない。もしかすると、今少子化の中で子供が減っていて、例えば30年後とか50年後とか、網走に子供の数がいなくなったりとかいったときは全くわかりませんが、今の段階で想定する範囲においては、センター化は基本的にしない。そのためにも、今現在ある調理場を生かしながら、こういった形で調理場の整備も進めていくのかという中で、先ほどお話しありましたように、衛生基準の改定もあり、変わったこともあり、それから子供の数も減った分もある。そういったことをいろいろな形の中で総合的に判断した中で、すべての調理場を、今の衛生基準に合ったような改築を進めるということになると、面積要件からいろいろなことも含めて、すべて大規模改修というか、もうなると。そういったような状況の中では、今回のセンター化しない、進めない中での最善策として、親子の部分での整備を進めるということがまず1点です。

それからもう一つ、調理方式についての部分の民営化の議論、議論の最初がそちらのほうから実は、可能なかどうなのかということも含めて検討してきております。

ちなみに、センターになったところの小清水町、清里町は、既に民営化になっております。一部配送業務その他を考えると、給食調理業務に民営化というか、そういう形の流れはかなり大きくあります。しかし、これも現時点においては、網走市の今の現在の調理体制の調理場の状況、その他を含めた中で、今直ちにその民営化に進むといったような議論は、網走市の段階においては、ちょっと状況としては、それは比較も含めた中で、する意味が、意味があるかないかは別ですけれども、その民間委託をする優位性がないということの中で、先ほどみたいに網走市は直営で運営するという形を決めさせていただいた中での判断

として、今回こういうふうな整理になってきているということで、御理解をいただきたいと思います。

○山田委員

確認をさせていただいた事項については、御答弁いただきましたので、私も理解をするということではなくて、まず知っておきたいというふうに思います。非常に大事なところだと思います。そういう意味で、今回改修をするということは、私としても相当長い将来についても、センター化ということは、整備をした施設を全部なくしてでも、新しくセンターをつくってでもやるという腹をくくれば別です。私はそういう意味では、単独方式のちょっと変形かもしれませんが、親子という形で給食室の改修をするということで今提案いただいている、導入計画もそれなりにつくられたと、こういうふうに説明を受けました。

それで、ちょっと委員長に最初確認をしながら入りたいのですが、事前協議の話もちょっとあったのですが、きょうはせつかく別紙として、地方財政措置の補正の内容についても資料いただきましたから、ちょっとここ何点かわからない点等確認したいことあるので、ここ数字とかどうかは言いませんが、その辺はよろしいですか。

○小田部委員長

山田委員のおっしゃるとおり、これはあくまでも我々議会から付託を受けている審査の範疇で、議論深めようと、こういうふうなことなのですが、提案された議案ではありませんから、どうぞそれは質疑をして、理解を深めていただきたいと、このように思います。

○山田委員

財政がこうだからということは別にして、せつかく資料をいただきました。それで追加補正のときには、当然どういう補助で、どういう補助率で、一般財源がどういう形かというのが具体的に出てくるといいますから、数字については一切触れませんが、今回そちら側の答弁として、国なりいろいろとぎりぎりまでいい形でできないかということで対応してきたと。そのことによって、大変申しわけないけれども、おくれたことが説明としてありました。それを、これが努力の結果だというふうの一つ思いたいのですね。それが結果だというふうに思いたいのですが、そこはどうなのですか。全く変わっていないのだったら、また大

変などになる。

○小田島学校教育部長

当初、3次補正が出て話があったのは、10月にそんな話が出て聞いたのですけれども、そのときに、給食施設等については、はなから対象施設として別の補助メニュー、違うところであるので、そちらのほうの部分でというお話しがありました。

今回の耐震の部分に関する中で、ほかのまちから含めた中で、給食施設についての改修も、何とか3次補正に組み込まれないかという話も実はあるけれども、組み込む状況がないというお話を随分されました。ただ、私どもは、学校は避難所の位置づけにもなっている。それから今回の震災のときに、学校は避難施設になったけれども、そこに給食調理場がついているところと、あるいはセンターで、ほかから運んでくるいろいろな状況がある中で、網走市については、何とか今回学校の中にあるところの調理場の改修、改善、改築含めた中で考えていると。では、耐震とあわせた中で、その可能性はないのかということも含めて、その分について提案とか要望とか含めた中でしてきました。そういった形の中で、今回12月1日に、新たにまた国から通知が来たのですが、耐震と一体的に行われる改築については、3次補正の要件とするということになりました。そういったことの中で、私どもも、ぜひこういった中の組み込みということが要望として認められたのかなというふうに思っておりますが、そういったこともある中で、私どもはぜひこの機会に、そういった制度の部分に入ったのもあるということもありながら、このぎりぎりの状況になって、まことに申しわけないのですが、予算上で、この機を逃さないで、特にこれをやることによって、耐震の部分も、今の給食室の改造の部分も含めて、子供たちに安全な環境を前倒しでできるということは、ぜひ私どもはやりたいということの中で、今回こういうふうになったので、ぜひこの機会をとらえた中でさせていただきたいということで提案しました。

まことに申しわけないのですが、その調整とかいろいろなものを含めた中で、当初に何とか間に合わなかったということは、先ほど進め方含めた中で、ちょっとそれは至らぬ点もあったかなというふうに思いますけれども、御理解をそういう

形でしていただければと思います。

○山田委員

そういう意味で、これが結果として、今回別紙の資料としてつけられている、上段と下段の比較なのだと思うのですが、市の持ち出しとして。要するに耐震の関係で行けば、給食関係もそうですが、国庫補助は2分の1というのは変わっていませんが、中央負担、いわゆる網走市が一般財源として持つ部分で行くと、21.25%の圧縮、耐震の関係では違いもありますし、給食の関係では24%、実質負担ということの中身なのですね。これは、また補正が出てきた段階で、中身についてはしっかりまた議論させていただきますが、3次補正に乗ることによって、耐震化とあわせて給食室の改修もあわせてやれば、この3次補正の該当があるというお話しでした。

それでちょっと給食関係のことで今論議しているわけですが、耐震はまた後日することにして、給食関係で、この補助の対象と、地方負担の割合あるのですが、例えば給食室の備品、こういうところにも、これ補助対象というのはどうなのか。

○小田島学校教育部長

通常制度の中でもあるのですが、基準額というのが決まっております、基準面積掛ける単価とかいったような、備品についても幾らという形になっていますが、それは金額が大きくなるうがどうしようが、補助される額は一定なのです。ですから、事業費が大きくなればなるほど、市町村の一般負担がふえるという状況が今の部分ですが、今回の3次補正の部分については、かかった部分の補助の部分以外、それは備品等も含めた中の、それについては、すべて地方債扱いの中で見てもらえるということで、幾らと言ったらあれなのですけれども、金額の増減にかかわらず、地方負担の24%は守られると。上の場合は、金額が多くなれば、地方負担だけがどんどんふえていくところの差が大きいというふうに思います。

○小田部委員長

一言で言えば、備品が含まれるということ。

○小田島学校教育部長

含まれます。

○山田委員

中身聞かせていただきましたから、例えば前倒しで、親子化でも2年間で整備をする予定で最初

は聞いてましたが、それと耐震化も3年、4年かけて、平成27年度までには終わらせるという流れで当初議論していた経過もあるのです。これ前倒しで今回、四つの学校を二つにするという中身ですが、今回、来年度やると。25年の1月及び4月には、給食室を始めるという中身で聞いているので、私どもとして、先ほども言いましたけれども、単独方式はあくまでも自校方式で行こうと、それとなるべく食数はやはり減らすと言うよりは、その対応の職員をやっぱり配置して、安心・安全に向けていくことを大原則に考えていただきたい。そういう意味では、パートの方とか、臨時の方が決して悪いわけではありませんし、それは処遇の面で変わっているだけであって、私はやっぱりきちんとした形で雇用するというをまずしっかり頭に入れていただきたいことをお願いをしたいと思います。

ただ、今回こういう形で聞きましたから、総合的に私たちも財政ばかり走っているようにも思えないところも、一つあるように私も考えますから、16日もまた委員会、それと追加補正でなったときにも、しっかり議論させていただこうとは思っていますが、総合的な考えもまた含めて、もう少しまた考えてみたいと思いますので、きょうはこの程度で。

○小田部委員長

お昼の時間ですけれども、質疑の想定で、このまま続けます。

○飯田委員

まだまだあるのですけれども、親子化の計画の中で、学校なり、それから保護者に説明した中で、配送距離と配送時間というのがあります。これは要するに、6分なり七、八分とあるのですけれども、その前後、要するにつくり終わって、作業して詰めて、出発して、それから実際に着いて児童生徒に届く、こういう時間もきちっと教育委員会の机上プランでなしに、実際やられたのですか、現場と。

○小田島学校教育部長

基本としたのは、今既に行われている、二中と中央小の状況を、そのまま実際に今回の想定している2校の部分について、実走しております。

それから、コンテナ等の移動についても、既存のダムウェーターで運べるかどうかの部分も含めて、それも実際に学校のダムウェーターを使った

中でやっております。それに合うような形でやりたいというふうに思っています。ただ、数の部分の中の、まだ搬入路とかについて、どういう整理をするかというのは、これからの部分もありますが、基本的には机上ではなく、実際に想定される部分を、ある程度現場の中で合わせながら想定をしております。

○飯田委員

そうすると、実際つくり終わって、すべて積んで、運んで、着いて、児童生徒に届く時間というものも、きちっとあるのですね。

○小田島学校教育部長

生徒に届くと言うか、配膳室に届く状況というのは今も同じ、つくって、終わって、配膳室に置いて、実際にそれから子供たちが給食を取りに行く時間に間に合うような形で、その配膳台にあるという前提の中で、配膳にかかる車からの積みおろしにかかる時間の想定、それから実際に走る距離の想定、それから積み込みに要する時間の想定とかというのを、一応それは既存の部分を含めた中で、あるいは実走の分も含めた中で、100%全部同じ形のものをまだ用意しておりませんので、その辺も含めた中で検討はしております。

○飯田委員

その時間帯は、次のときには出るのですね。実際つくり終わってから、詰めて車に乗せて出発するまでがどのぐらい、何分か、それから実際に着いておろして、生徒が取りに来る時間が何ぼかということ、もうできているということなのか。

○小田島学校教育部長

個別の部分でどうのということになると、それぞれの両校の部分の距離の部分を含めた中で、うちのほうで、先ほど言ったように、実走も含めた中で想定した時間帯というのはありますので、次回るときにそういったものもお示しをしていただきたいということであれば、お示ししたいと思います。

○飯田委員

私は、当然それがペーパーの中にきょう入ってくるぐらいなもの、審議だと思うのです。頭か上げてますが。本来、ましてや今度多くつくった、例えば南小で約1,000食ぐらいつくる。今までの2倍近くつくったら、今度その南小で、やっぱり時間かかってしまう。そういう時間のかかること

も、きちっと想定されているのですね。

○小田島学校教育部長

食数がふえる状態に応じては、その食数に対応する施設規模という形で考えておりますし、それらに対応できるような人員配置というの、基本的には考えております。そこで行われる実際の事業については、まだそこで何分かかるという話は、まだ実際にもものができておりませんし、実施設計もこれからさせていただくのであれですが、ただ基本となる部分の中の、調理員が実際に今現在行っている二中と中央小学校のつくり方、ローテーション、その他の分を参考にした形の中で、それをもとにした形の数値というふうになるかと思えます。

○飯田委員

私は、そこまでの計算はやられてない。自分の思いです。だから最低そのぐらひは、きちっとこの委員会に出すようなものでなければならぬし、ましてや父母等の説明の中でも、そういうことを説明するような資料を、私は最低限だと思ふ。この基本事項の4行の中で済ませるような問題ではないし、ましてや、私は委員長にお願いしたいのは、実際これ一つとっても、委員会として果たしてどうなの。現場に行き、果たしてそれが可能なかという、委員会が閉会中なり、開会中に実際現地視察するというのも、私は考えて提案、要望をするのですけれども、そのことも含めて、次回に資料をきちっと示して、そのときにまた今の要望を委員長に判断してもらいたいと思ふますけれども、いかがでしょうか。

○小田部委員長

このことについては、もう委員会ですから、委員の皆さんと相談をして、そういうふうな現場対応をするかどうかを決めていきたいと、このように思ふますから、各委員の皆さん聞き及んで、それに対応の御判断をしていただきたい。委員長としてお伺いします。

次に、ありませんか。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

本日は、この学校給食議件については、この程度で閉じさせてもらってよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○小田部委員長

それでは、委員の皆さん、そして理事者の皆さん

ん方には、学校給食について、特に親子方式について、極めて熱心なローリングを含めた質疑をいただいて、それぞれの理解を深める成果を得ただろう、このように思います。

委員会の冒頭で、教育長は委員会に対するこれまでの時間的、その他の案件があつて、必ずしも適切な配慮であつたと思わない。逆を言うと、配慮に欠けていた点もあつたと思う、こういうふうな御発言がありました。今後については、そういったことを十分体して、委員会対応をしてくれるものと期待をしておりますし、また、そんなことを教育委員会に御要望を申し上げ、本件については、これをもって質疑を終了したいと思いません。

その他、委員の皆さん、何か御発言ありませんか。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

先刻の飯田発言については、機会を見て委員の皆さんと御協議して、配食の現場の実態調査をするか否か、これを決めてまいりたいと、このように思います。

委員の方、発言なければ、理事者の方向かありませんか。

(「なし」の声あり)

○小田部委員長

なければ、以上をもって総務文教委員会を閉じさせていただきます。

大変御苦労さまでした。

午後0時10分 閉会